

# 令和2年度 公共事業事後評価調書

## 1. 事業説明シート

(区分) **国補** ・ 県単

事業名	畑地帯総合整備事業（国補）		事業箇所	笛吹市一宮町中尾	地区名	一宮北部	事業主体	山梨県	
(1) 事業着手年度	H14年度	(2) 事業期間	H14年度～H27年度	(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	3,015百万円		
(5) 事業着手時点の課題・背景					(8) 事業位置図等				
<p>本地区は笛吹市一宮町の北東部に位置し、ぶどうやももを中心とした果樹の栽培が盛んに行われている地域である。</p> <p>しかしながら、本地区内の水路や農道は未整備であり区画が狭小・不整形であるなど営農条件が不利な農地が多く、栽培、出荷などの作業労力の負担が大きく効率性が悪いことから、将来的な果樹産地としての維持発展に不安を抱えており、生産性の向上を図るための生産基盤の整備が喫緊の課題となっていた。</p> <p>このため、生産基盤にかかる区画整理や排水路、農道の整備を行い、農作業の効率化・省力化など、営農条件を改善することで、持続的な果樹産地の維持、発展に取り組むことを目的として事業を実施した。</p>									
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果									
<input type="checkbox"/> 主要目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業生産力の向上</li> </ul>									
<input type="checkbox"/> 副次目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業用排水能力の向上</li> </ul>									
<input type="checkbox"/> 副次効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 果樹園景観の保全</li> </ul>									
(7) 整備内容（目標達成の方法）									
事業量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用排水路 10路線 L=8,938m</li> <li>・ 農道 20路線 L=9,023m</li> <li>・ 区画整理 5箇所 A=6.2ha</li> </ul>									

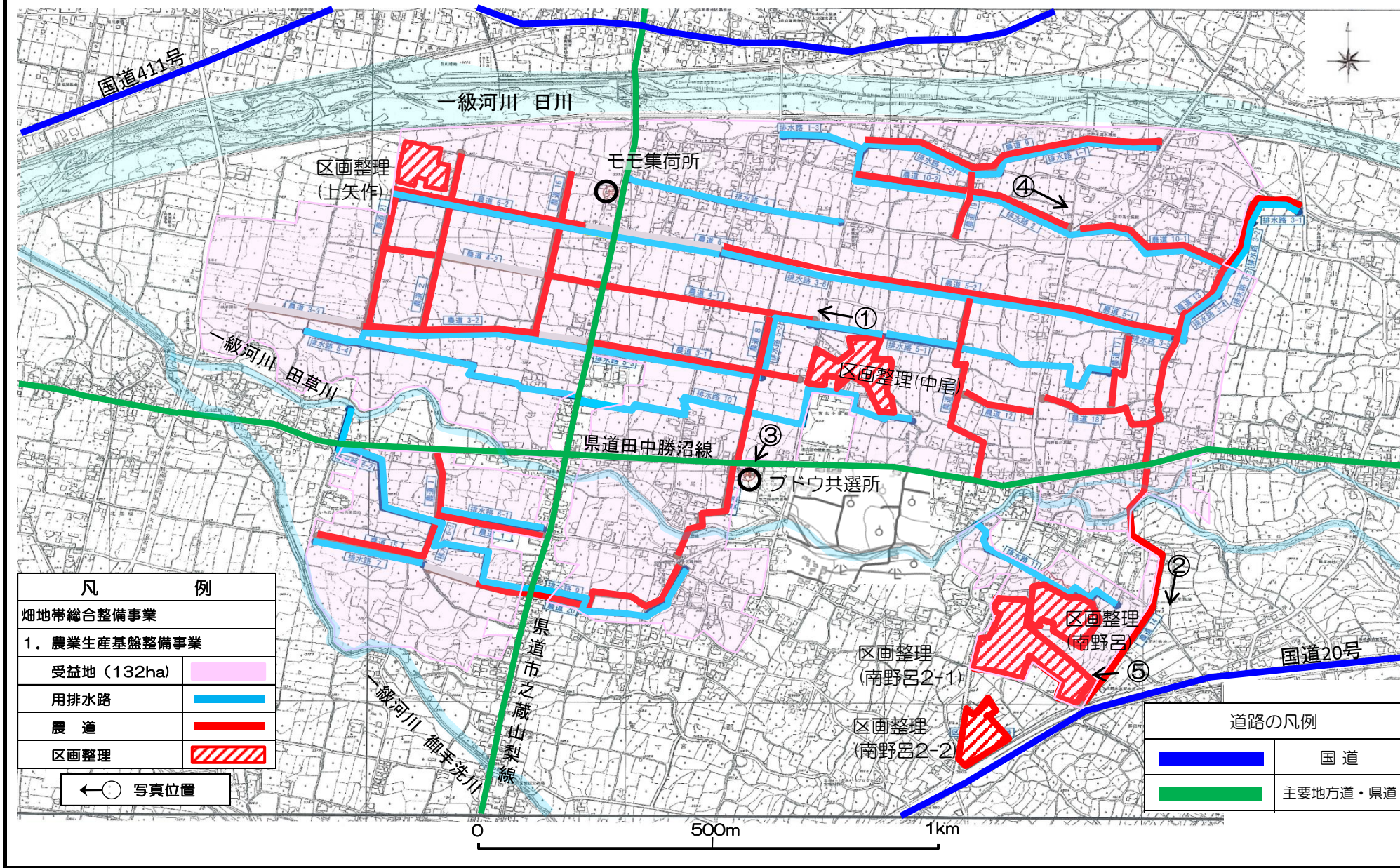
## 2.評価シート(1)

<p><b>(1) 事業貢献度</b> <span style="float: right;">〈(良)・不良〉</span></p> <p>(理由) 農道、用排水路、ほ場が整備されたことにより、農作物の生産性及び品質が向上するとともに、維持管理労力が軽減し、営農条件が改善された。</p> <p>①主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:30%;">指標</th> <th style="width:35%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">事後評価時点数値等</th> </tr> <tr> <td>面積当たり農業所得増加額</td> <td>863千円/ha ※1</td> <td>1,206千円/ha</td> </tr> </table> <p>□評価 ・農業所得の増加額が評価基準値810千円/haを上回っている。 (区画整理などの生産基盤整備の実施により作業効率の向上やもも等の農作物の品質が向上したことにより農業所得が増額となった。) ※1 評価指標を当時設定していなかったため、今回算出</p> <p>②副次目標 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:30%;">指標</th> <th style="width:35%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">事後評価時点数値等</th> </tr> <tr> <td>施設老朽度</td> <td>3.00 ※3</td> <td>0.33 ※1</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.67 ※3</td> <td>1.67 ※2</td> </tr> </table> <p>□評価 ・施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。 ※1 施設老朽度 = 完成時からの経過年数(10年) ÷ 施設の耐用年数(30年) ・排水能力向上率が基準値1.00を満たしている。 ※2 用排水能力向上率 = 計画排水能力(2.61m<sup>3</sup>/s) / 既存用排水能力(1.57m<sup>3</sup>/s) ※3 評価指標を当時設定していなかったため、今回算出</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:20%;">項目</th> <th style="width:80%;">内容</th> </tr> <tr> <td>果樹園景観の保全</td> <td>区画整理により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。</td> </tr> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 ・本地区で行った区画整理がモデルケースとなったことで基盤整備の機運が高まり、その効果が地区外へも波及し、町内他地域での事業実施へとつながった。 ・認定農業者が約2倍に増加し、新規就農者も増加傾向にある。地区内にはワイナリーが参入し、醸造用ぶどうを栽培することで、地域農業の維持発展に貢献している。</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	面積当たり農業所得増加額	863千円/ha ※1	1,206千円/ha	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	施設老朽度	3.00 ※3	0.33 ※1	用排水能力向上率	1.67 ※3	1.67 ※2	項目	内容	果樹園景観の保全	区画整理により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。	<p><b>(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化</b> <span style="float: right;">〈(有)・無〉</span></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:30%;">項目</th> <th style="width:35%;">着手時点</th> <th style="width:35%;">事後評価時点</th> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,895 百万円</td> <td>3,015 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H14~H19</td> <td>H14~H27</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>H13</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">費用</td> <td>1,895 百万円</td> <td>3,015 百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>1,895 百万円</td> <td>3,015 百万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">便益</td> <td>2,353 百万円</td> <td>3,485 百万円</td> </tr> <tr> <td>作物生産効果</td> <td>270 百万円</td> <td>469 百万円</td> </tr> <tr> <td>品質向上効果</td> <td>541 百万円</td> <td>1,009 百万円</td> </tr> <tr> <td>走行経費節減効果</td> <td>784 百万円</td> <td>760 百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>758 百万円</td> <td>1,247 百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> </tr> </table> <p>その他は、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、更新効果等費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析) 総事業費：区画整理、用排水路の事業量の増、及び用地補償費の増。</p> <p>工期：事業量増による事業工期の増。</p> <p><b>(3) 事業実施による環境の変化</b></p> <p>①自然環境への影響 基盤整備を進めたことで耕作放棄地の発生防止につながり、地域の良好な農村景観が保たれている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合) なし</p> <p><b>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</b></p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>	項目	着手時点	事後評価時点	総事業費	1,895 百万円	3,015 百万円	工期	H14~H19	H14~H27	評価基準年	H13	R2	費用	1,895 百万円	3,015 百万円	建設費	1,895 百万円	3,015 百万円	便益	2,353 百万円	3,485 百万円	作物生産効果	270 百万円	469 百万円	品質向上効果	541 百万円	1,009 百万円	走行経費節減効果	784 百万円	760 百万円	その他	758 百万円	1,247 百万円	B/C	1.2	1.2
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																						
面積当たり農業所得増加額	863千円/ha ※1	1,206千円/ha																																																						
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																						
施設老朽度	3.00 ※3	0.33 ※1																																																						
用排水能力向上率	1.67 ※3	1.67 ※2																																																						
項目	内容																																																							
果樹園景観の保全	区画整理により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。																																																							
項目	着手時点	事後評価時点																																																						
総事業費	1,895 百万円	3,015 百万円																																																						
工期	H14~H19	H14~H27																																																						
評価基準年	H13	R2																																																						
費用	1,895 百万円	3,015 百万円																																																						
	建設費	1,895 百万円	3,015 百万円																																																					
便益	2,353 百万円	3,485 百万円																																																						
	作物生産効果	270 百万円	469 百万円																																																					
	品質向上効果	541 百万円	1,009 百万円																																																					
	走行経費節減効果	784 百万円	760 百万円																																																					
	その他	758 百万円	1,247 百万円																																																					
B/C	1.2	1.2																																																						

評価シート(2)

<p><b>(5) 今後の事後評価の必要性</b> <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)          農道の整備により、農作物の運搬時間の短縮、荷痛み防止により品質向上し、用排水路の整備により、湿害による農作物の品質低下が防止され、安定した品質の農産物が生産されている。また、区画整理により作業効率の良いほ場が形成された。          これらの整備により、高品質なぶどう、ももの生産が維持されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法          ・時期：            年度          ・方法：</p>	<p><b>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性</b> <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)          なし</p> <p>(具体的反映策)          なし</p>
<p><b>(6) 本事業における改善措置の必要性</b> <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)          なし</p> <p>(具体的反映策)          なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)          なし</p>	<p><b>(8) 事業評価手法の見直しの必要性</b> <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>(理由)          なし</p> <p>(具体的反映策)          なし</p> <hr/> <p><b>(9) その他特筆すべき事項</b> <span style="float: right;">〈有・<b>無</b>〉</span></p> <p>なし</p>

# 畑地帯総合整備事業（担い手支援型）一宮北部地区 計画一般平面



凡 例	
畑地帯総合整備事業	
1. 農業生産基盤整備事業	
受益地 (132ha)	<span style="background-color: #FFB6C1; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
用排水路	<span style="background-color: #00BFFF; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
農道	<span style="background-color: #FF0000; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
区画整理	<span style="background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, red 2px, red 4px); border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>

←○ 写真位置

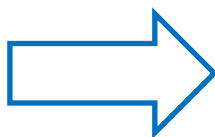
道路の凡例	
<span style="background-color: #0000FF; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>	国道
<span style="background-color: #008000; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>	主要地方道・県道

### 3.添付資料シート(2)



着工前  
幅員が狭く、脱輪の危険性があるなど、営農に支障をきたしていた。

#### ① 農道

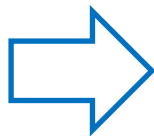


完成後  
農耕車の進入やすれ違いが容易になり、安全性と農作業の利便性が向上した。

#### ② 農道



着工前  
幅員が狭く、舗装版の痛みも著しいことから、農作業の支障となっていた。



完成後  
農道整備により、通作や集出荷の効率化や荷痛み防止による農作物の品質が向上した。

#### ③ 一宮北地区統合共選所

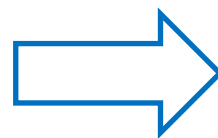


### 3. 添付資料シート (3)



着工前  
未整備のため溢水が多発していた。

#### ④ 農業用排水路

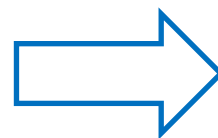


完成後  
水路改修による排水改良や表土の流出防止により、営農条件が改善され、農作物の品質が向上した。  
既設の石は土留めに利用するなど、景観にも配慮した整備が行われている。



着工前  
区画が狭小で段差も多く、消毒や収穫等の作業効率が低いほ場であった。

#### ⑤ 区画整理



完成後  
区画整理により農作業効率が向上し、収益性の高い農業経営が可能となった。